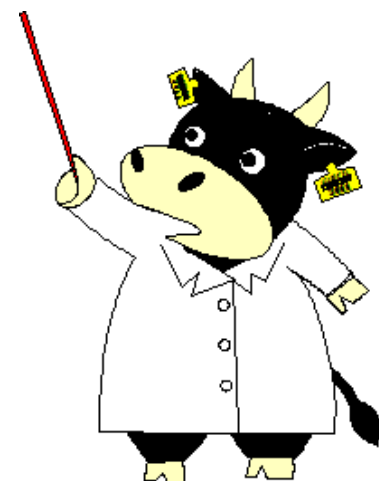
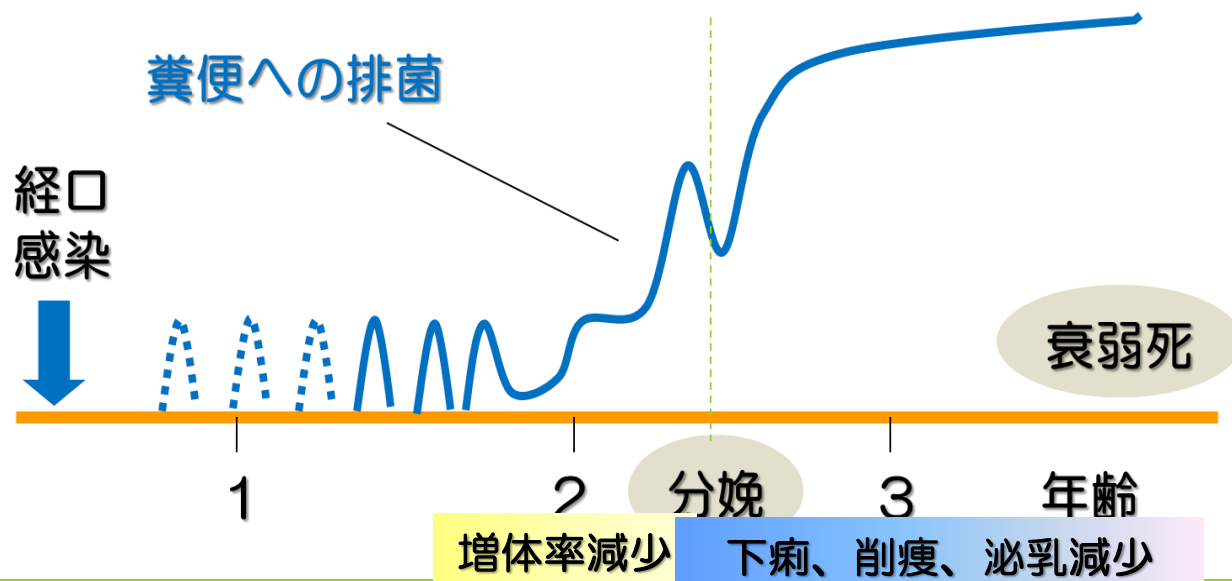


ヨーネ病とは

- 治療法・ワクチンがない。
- 症状が出る前から糞便・乳汁中に排菌
- 発病まで長期間かかる（1～8年）

→発症時には、既にヨーネ病がまん延！



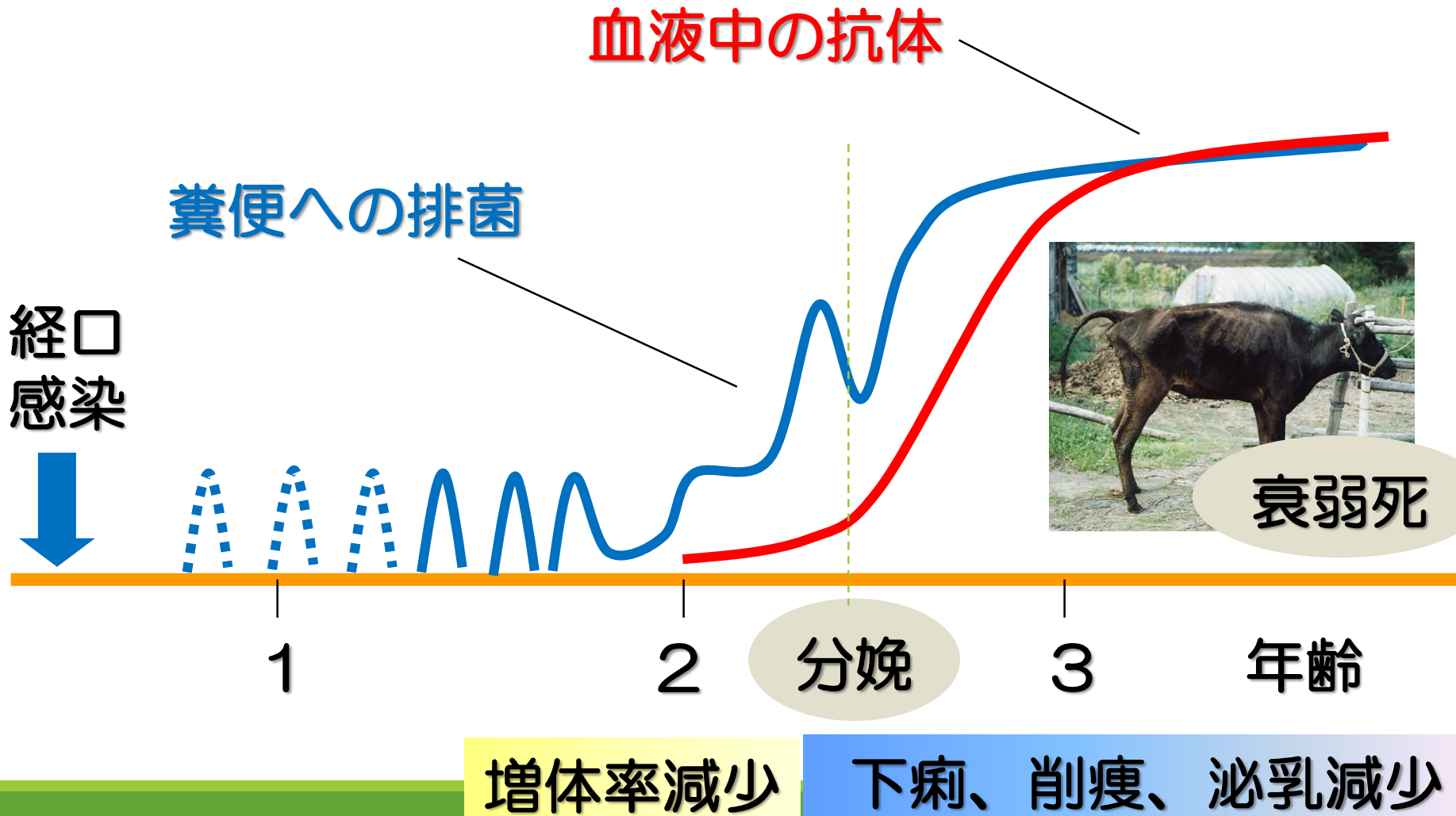
ヨーネ病の検査方法

- 血液の抗体検査（スクリーニング法）
- 糞便の遺伝子検査（リアルタイムPCR法）
- 糞便培養（判定までに3か月）

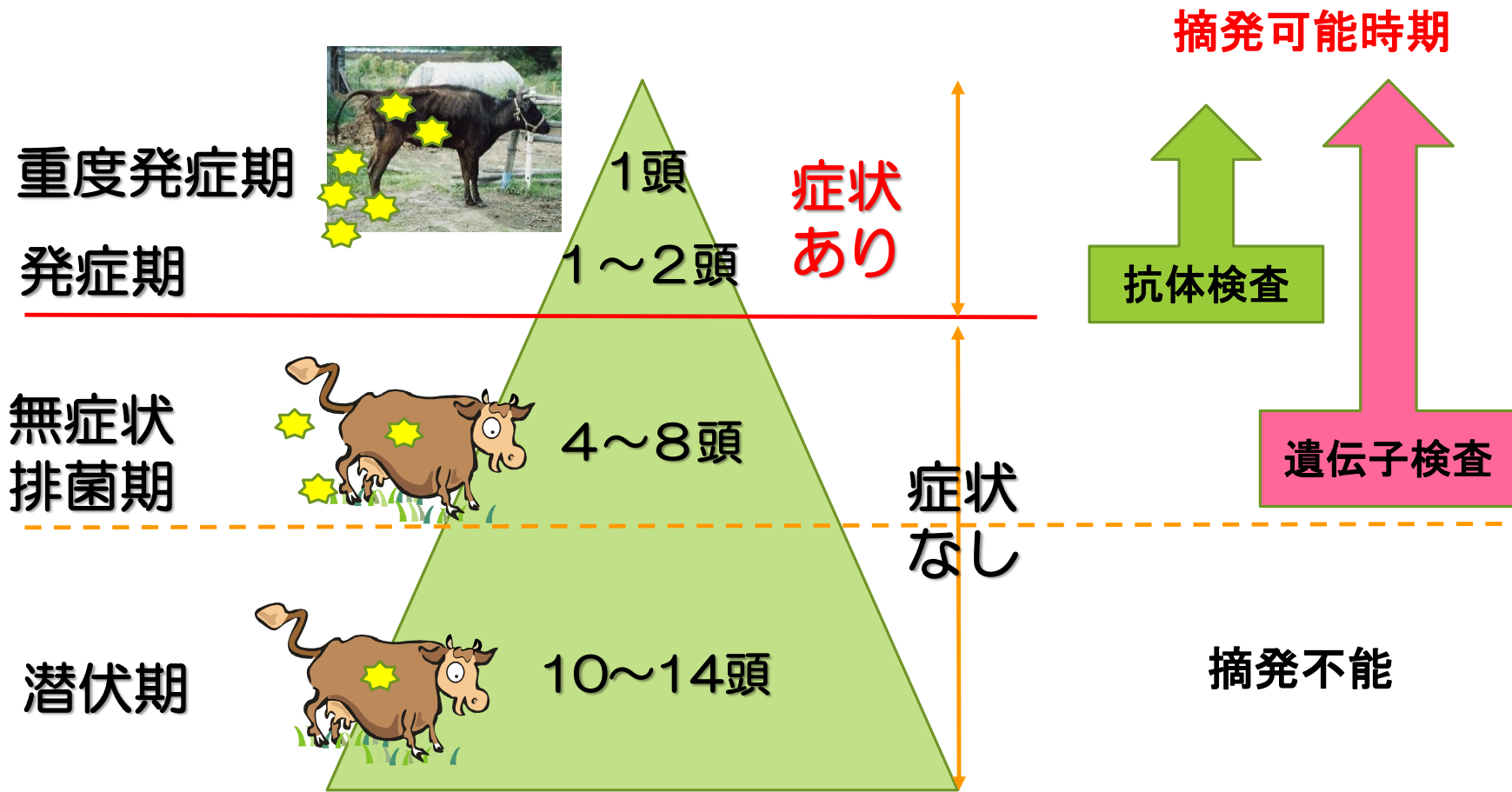
スクリーニング法



初生期にヨーネ菌に感染した牛の経過モデル



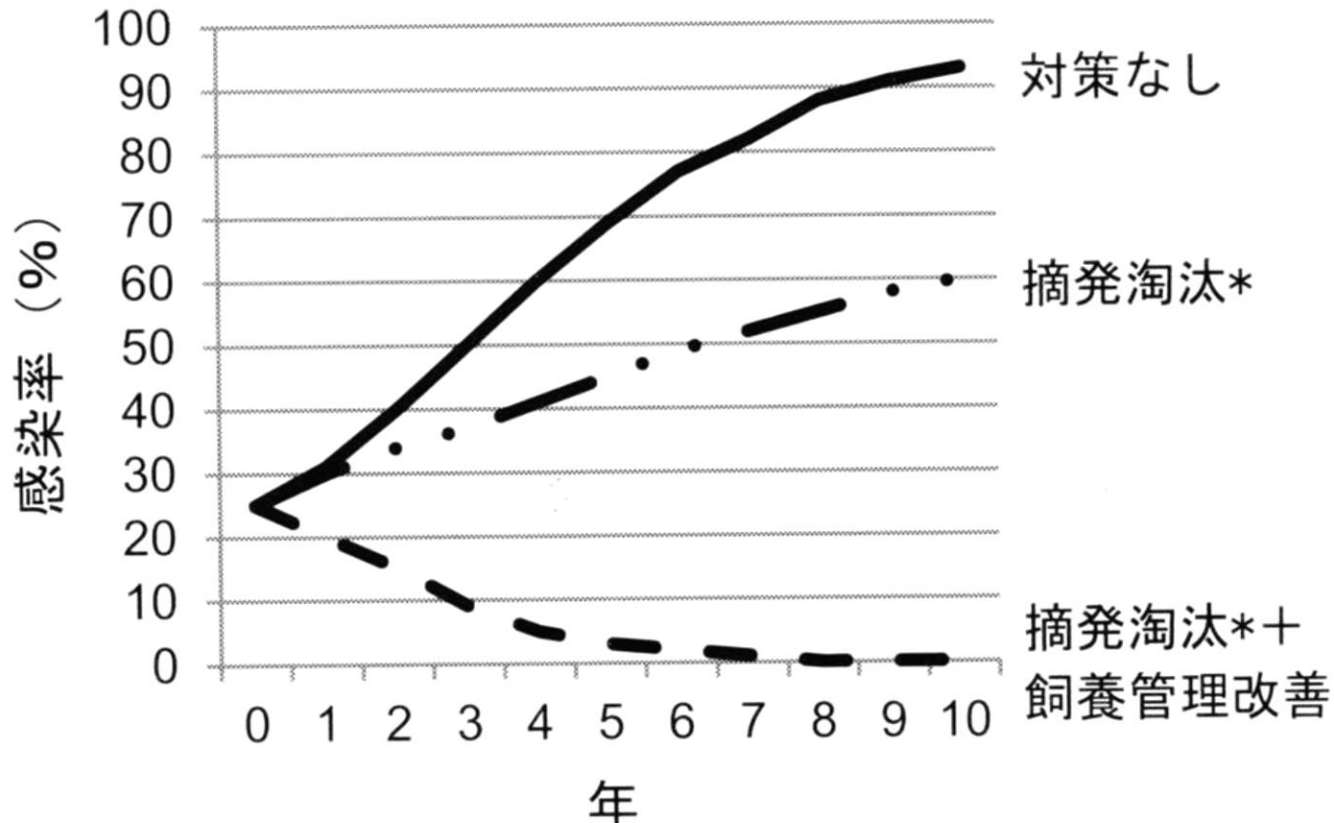
ヨーネ病感染牛群の冰山現象



(2013 Magombedze G et al.)

全ての感染牛を摘発できる検査法はない

ヨーネ病対策



農場汚染のシミュレーション

*臨床症状あるいは培養検査による摘発頭数

ヨーネ病感染牛の早期摘発・淘汰と衛生管理

ヨーネ病はどうやって感染するの？

感染牛は
ヨーネ菌を排泄

汚染された乳頭や環境
から子牛が感染

6か月齢ま
では感染
リスクが
高い

ヨーネ菌が
口から入る

ヨーネ病牛

子牛

同居牛

胎子

乳汁

25%が感
染してい
るとの報
告あり

環境中のヨーネ菌が
同居牛に感染

胎内で感染
乳汁から感染

ヨーネ菌の環境生存性

(動衛研 横溝,百溪ら)

川の水の中～約160日

池の水～約270日

糞便,黒土の中～約330日

糞尿混合状態～1ヵ月

乾燥糞便中～約8ヵ月

スラリー～約30日

凍結下～1年以上

凍結融解後4℃～5ヵ月

乾燥状態での直射日光下～100時間以内

環境中に排菌されたヨーネ菌は農場内を汚染し、
感染源となる。